

Post-corona/with-corona時代における持続可能な腎臓病診療・療養の堅牢な体制構築
 COVID-19感染環境下での腎臓病診療の実態調査

研究分担者 横尾 隆 東京慈恵会医科大学 教授

研究要旨

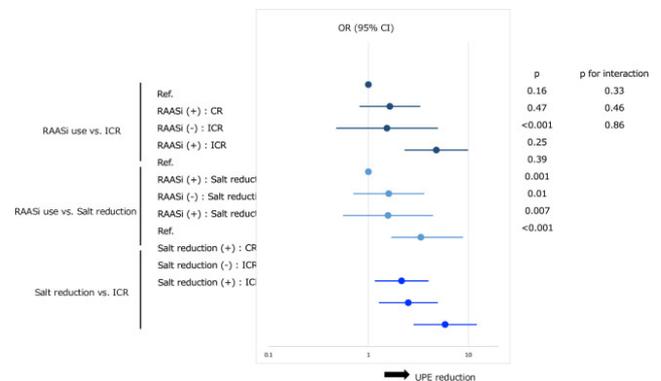
1) COVID-19流行環境下においても安全かつ持続可能なCKD患者の診療と療養について検討が必要である。本研究では、COVID-19流行環境下におけるCKDの診療の現状を把握するために、全国の腎臓専門医を対象としたアンケート調査を行なった。
 2) 慈恵会医科大学病院通院中の外来非透析CKD患者を対象にCOVID-19流行拡大前後の病態変化、治療実態を評価した。COVID-19感染拡大状況においても食事療法を含めて、CKDの標準的治療を継続すること、CKD重症化を予防する上で重要であることが明かとなった。

A. 研究目的

- COVID-19感染拡大が腎疾患・高血圧患者の診療および療養に与えた影響について腎臓専門医を対象に実態調査を行う。
- COVID-19感染拡大によるCKDの病態・重症度変化、診療実態変化を評価する。

B. 研究方法

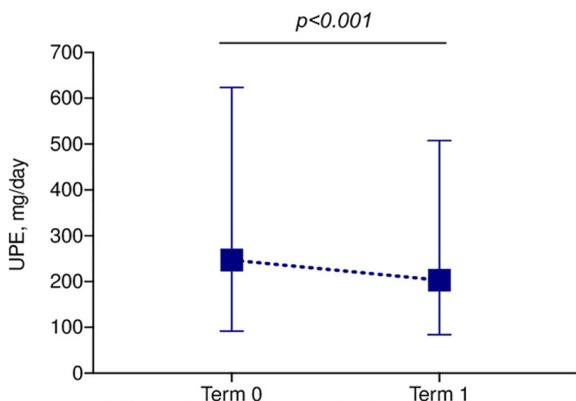
- 全国77名腎臓病協会幹事役員を対象とし、COVID-19感染流行下の腎疾患・高血圧患者の診療および療養の実態に関するアンケートを実施し回答を集計した。
- 慈恵医科大学病院外来通院中の非透析CKD患者325名（stage G1- G4）、平均年来58.5歳、女性37.5%、男性80.6%を対象に解析した。



多変量解析では、尿中NaCl排泄量の減少が尿タンパク排泄量低下と関連していることが示された。

(倫理面への配慮)

個人情報保護の観点から、アンケート調査は無記名により行い、個人の識別ができないように配慮した。したがって、研究対象者には不利益は生じず、倫理面に問題はないと考えられる。



COVID-19感染拡大後に、CKD患者のタンパク排泄量はむしろ減少した。患者の体重、血圧、タンパク摂取量に有意な変化を認めなかった。

D. 考察

本調査によって、腎臓専門医の多くがCKD診療に従事する傍らCOVID-19の診療にも尽力している実態が明らかになった。COVID-19流行環境下においても持続可能なCKD診療を実行していくうえで解決すべき多くの課題があることも明らかになった。

COVID-19感染拡大状況においてもレニン・アンジオテンシン系阻害薬を含む腎臓病の標準治療の継続、減塩食を中心とした食事療法の継続が重要であることが明かとなった。

E. 結論

本調査をもとに、COVID-19流行環境下においても安全かつ効果的なCKD患者の診療と療養を可能とするエビデンスに基づいた診療指針が策定されることが期待される。

F. 健康危険情報

(総括研究報告書にまとめて記入)

G. 研究発表

1. 論文発表
1) 坪井伸夫, 伊藤孝史, 田村功一, 猪阪善隆, 岡田浩一, 南学正臣, 柏原直樹, 横尾隆. COVID-19 流行環境下における慢性腎臓病診療及び受療行動変化の実態調査. 日本腎臓学会誌 (2021年刊行予定)

- 2) Nobuo Tsuboi, Takaya Sasaki, Naoki Kashihara, Takashi Yokoo, Proteinuria changes in kidney disease patients with clinical remission during the COVID-19 pandemic, PLoS One. 2021; 16(4): e0250581.

2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
特記なし